

8月1日～4日

フランシスさんがサリーへ来て1日から数日間を一緒に過ごす予定。
プレーティングカンパニーを見に行ったり、フランシスさんの友人のお宅におじゃましたり、勿論、ワークを一緒にしたり、と盛りだくさんである。

8月2日

コンダクティブな糸を使って刺繍の技法を取り入れた物、同じくコンダクティブな素材にコーティングを施した物、などのサンプルを制作し、銅メッキを試してみる。次の日にプレーティングカンパニーに見学を兼ねて行くので比較の為、同じサンプルを制作する。

8月3日

ギッセン夫妻とフランシスさんのお友達の家へ。皆で食事をしたり話をしたり大変楽しい時間であった。こちらへ来てから人と話す機会があるといつも日本の、特に伝統的な文化について自分があまりに知らなさすぎる、と痛感します。

8月4日

プレーティングカンパニーへ見学とサンプル作りをお願いしに行く。大きな水槽の中に沢山の金属のパーツが浸かっている。フランシスさんはここでジンのメッキ加工を依頼している。工場の方たちはとてもフレンドリーで私たちのサンプルも状態をチェックしてもらった後、手早く準備されて工業製品の浸かる水槽の端っこに入れてもらい20分程待機。美しい銀色に変わったサンプルが出来上がった。銅メッキとはまた違う仕上がり。こうして会社や色々な人達と交わる事で仕事の幅を広げる、というのは私には今まであまり無かったアプローチです。色んな人の知恵や力を借りる、というのは大切な事だし、またそこに良い関係が出来る事は目に見えないレベルでも作品の大きな力となっているのではないかと感じました。

8月9日

ロンドンでレズリーさん、テキスタイルアーティストのシリアさん、新田さん、吉本さんと会う。新田さんは再渡英したばかり、吉本さんは帰国前、ということで最初で最後のロンドンでのミーティング。この頃は帰国も近いこともあり、滞在中よりも帰ってからどの様に仕事を進めるか、ということがいつも頭にあって離れなかった。

8月15日～17日

最後のミーティング。フランシスさんが日本の古いラッピングの本を入手して見せてくれた。一緒に作る作品の参考にする為である。60年代に外国向けに出版されたその本はかなり面白いもので今でも馴染み深い商品が沢山載っていた。日本でなら日常に普通に存在している物もこうして外国で見るととても面白い物に見えるのが不思議だ。やはりまだまだ日常からテーマやそれに繋がりそうな物を見つけるのが下手なようだ。

8月20日

帰国後の不安を目いっぱい抱きながら飛行機に乗り、帰国。

今回のジャーナルはとにかく盛り込めなかった物が沢山ある。多くの人と出会い、話し、良い時間を過ごしました。ページの制限上、全て書ききれないのが残念ですが英国滞在中宿泊とスタジオを用意してくれたサリーインスティテュートとIan

Dumelow、サリーで制作する際に全てに於いてお世話になったNick

Gorse、最後のロンドンで快く滞在をさせてくれたLutz

Becker、そして全てのアレンジといつも心強い励ましをくれたLesley

Millar、そしてそしてとにかく沢山の事を教えてくれて楽しい時間をプレゼン

トしてくれた素晴らしい私のパートナー、Frances

Geesinさんとその家族に感謝します。本当にありがとうございました。